

祝 辞

愛媛県俳句協会会長 相原左義長

加戸知事の「スポーツ立県えひめ」に俳句を加えたことは、えひめ県民さらなる発展をさせる力を養うことになり、日本全国に普及して4回を迎えるに当り一言およろこび申し上げます。

終戦直後の昭和20年10月食糧不足のため、国民が栄養失調に陥り復興日本を背負うにはいささか体力が問題であることに気づき、いち早く昭和21年には国民体育大会（国体）が提唱され第1回が京都を中心に実施され、平成18年「のじぎく兵庫国体」の名のもとに実施されることになっているが今やオリンピックに於ても体力の差を考えられなくなった。

昭和60年東京を皮切りに「国民文化祭」が開催されることとなった。「健全な精神は健康な身体に宿る」と言うことで健全な身体を作るべくスポーツに力を入れ、その目的を達成したと考えられる時に文化の発展を望むのは当然のことです。それでは文化とは何かを模索するとすれば果して愛媛では先ずはじめに上げられるのが正岡子規が提唱した近代俳句が考えられる。

そこで財団法人愛媛県体育協会が日本全国によびかけ「えひめスポーツ俳句大賞」を他県に先がけ計画実施し回を重ねる毎に内容も充実し、特に日本全都道府県から漏れなく応募されたことは最大の喜びであります。投句数、句の質共に上々の感じであり一般・ジュニアと分けて考えればジュニアの進歩が目を引きます。

充実した表彰式を期待しております。

事務局のご苦勞に対し感謝申し上げます。